

会長就任挨拶

R2.2.21 札幌市立篠路小学校 神谷 敦

只今、会長に選考いただきました神谷でございます。大石会長から北海道小学校長会 会長という大役を引き継ぐこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

会長の就任にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

北海道小学校長会は、来年度、昭和32年の発足から63年目を迎える伝統ある組織であります。「正論を以って正道を歩む」という崇高な理念の下、全道の会員一人一人が、北海道の小学校教育充実・発展のために、真摯な取組を続けてきております。脈々と受け継がれているその伝統を大切にし、皆様と力を合わせ、さらなる前進をしてまいりたいと考えております。

さて今日、学校現場においては、学力・体力向上への対応、いじめ・不登校等の生徒指導への対応、特別支援教育の充実、貧困・虐待への対応、そして保護者へのきめ細かな対応をはじめ、複雑かつ多様な課題に対応することが求められております。

さらには、教育の質の向上と学校における働き方改革の推進、教員の確保や人材育成、教職員定数の改善、服務規律の徹底、胆振東部地震等の教訓を生かした学校安全教育の充実など、対応しなければならない喫緊の課題が山積しております。

こうした中、いよいよ4月から新学習指導要領が全面実施されます。

新学習指導要領では、社会構造が大きく変わり予測不能な社会において、主体性をもって生き、自ら変化を創り出す力をもった子を育てていくことが求められています。そのためには、子どもたちに、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、そして「学びに向かう力や人間性」の三つの力を身に付けさせていく必要があります。

私たち校長にとって、この三つの力をバランスよく育てるための『社会に開かれた教育課程』を実現していくことが大きな使命となります。明確な経営ビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、喫緊の教育課題や教育改革の推進に立ち向かっていかなければなりません。

これまで以上に、校長の役割と指導性が問われる時代になったといえます。

新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、一人一人の校長が、その役割と指導性を十分に発揮する、そのことは、小学校長の職能向上と本道教育の振興を図ることを目的とする北海道小学校長会の存在意義そのものとも言えます。

来年度は、第63回北海道小学校長会教育研究オホーツク・北見大会が開催されます。校長の職能向上と本道教育の質の向上を目指して、研鑽を積んでいく大きな機会となります。今年度の胆振・苫小牧大会におきましては、昨年度の函館の全国大会で積み上げてきた成果をもとに、研究大会全体の内容や分科会運営がより一層充実したものとなりました。特に、分科会については、参画型の運営をさらに進めることができ、貴重な学び合いの場となり、参加された多くの校長先生方の日常の学校経営に結び付けるものにできまし

た。これからも北海道の子どもたちのよりよい教育のために、同じ方向を向いて研究を深めていきたいものです。

私たちが住むこの広大な北海道は、それぞれの地域特性や自然環境も大きく異なり、各地域の抱える実情は様々です。こうした環境にあるからこそ、各地区校長会が道小という組織を通して心を一つにし、今後も一致協力して進んでいくことが大切であると考えております。それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながり、日本の教育、そして未来を動かす大きな力になっていくと信じております。

これからも、この道小という組織を活性化させるとともに、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、北海道教育委員会、民間教育団体等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、「チーム北海道」として北海道教育の充実に努めてまいりたいと考えております。

今後も、各地区校長会の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく願います。